

St. Luke's International University Repository

聖路加国際大学DNP（Doctor of Nursing Practice）コースに対する評価と今後の課題：
学生と教員を対象とした調査報告

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2024-03-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 林, 直子, 瀬戸屋, 希, 小山田, 恭子, 奥山, 絢子, 麻原, きよみ メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.34414/0002000169

実践報告

聖路加国際大学DNP（Doctor of Nursing Practice） コースに対する評価と今後の課題 —学生と教員を対象とした調査報告—

林 直子 瀬戸屋 希 小山田恭子 奥山 絢子 麻原きよみ

Evaluation of the Doctor of Nursing Practice Course at St. Luke's International University and Future Challenges: A Report on the Survey of Students and Faculty

Naoko HAYASHI Nozomi SETOYA Kyoko OYAMADA
Ayako OKUYAMA Kiyomi ASAHARA

〔Abstract〕

St. Luke's International University established Japan's first Doctor of Nursing Practice (DNP) course in 2017. Since five years have passed, we decided to conduct a survey of our students and faculty members with the goal of reflecting on our curriculum and identifying future challenges. Findings revealed that students were highly satisfied with the lecture style (online and onsite), faculty guidance, peer support, and learning environment, and they reported that they were satisfied with learning content that would lead to the achievement of the diploma policy. Furthermore, graduates indicated that they felt more confident in their research and quality improvement activities after completing the course. Faculty members recognized that being involved in the DNP course was an invaluable opportunity to learn new research methodology, perceive their contribution to practice, and develop professionals who can create a difference in the clinical field. In addition, clinical supervisors appreciated the opportunity to see the potential of their institutions. However, challenges, such as balancing work and academics, difficulty in obtaining approval from the ethical review board at their own institution for the design of implementation research, and the need to clarify the scope of the research project and secure human resources to improve the curriculum, were also identified.

〔Key words〕 DNP, Doctoral Degree Program in Nursing, Curriculum Evaluation, Advanced Practice Nursing

〔要 旨〕

聖路加国際大学は、本邦初のDoctor of Nursing Practice（以下、DNP）コースを、2017年に開設し、5年が経過した。そこで本教育課程を振り返り、今後の課題を明確化することを目的に、学生と教員を対象に調査を行った。その結果、講義形態や教員の指導体制、ピアサポート、学習環境に対する学生の満足度は高く、ディプロマ・ポリシー（DP）達成につながる内容を学習していると学生は評価していた。また修了生は、修了後に自信を持って研究や質改善活動ができるようになったと回答した。教員は、DNPコースの教育に携わることで自身の勉強になり、実践への貢献を実感できる、臨床現場の変革を起こす人材を育成できるコースであると認識し、臨床指導教員も施設の可能性を感じる機会となったと評価していた。一方、仕事と学業の両立や、自施設の倫理審査を実装研究のデザインで承認を受ける難しさ、プロジェクト研究の範囲の明確化とカリキュラム継続のための人材確保など課題も明らかとなった。

〔キーワード〕 DNP, 看護学博士課程, カリキュラム評価, 高度実践看護

I. はじめに

聖路加国際大学は大学院看護学研究科において、2017年度に高度看護実践者を対象とした本邦初のDoctor of Nursing Practice（以下、DNP）コースを開設した。2023年10月時点で、これまで36名が入学し、19名が修了している。

本コースのカリキュラムは、①環境および社会的要請の明確化と呼応、②実践プロセスとアウトカム評価の実施、③エビデンスと学問的方法論の活用の3つの要素で構成されている。DNPの各特論において①②を、DNP看護理論・研究方法、特別研究方法論において③の要素をそれぞれ学習し、それらすべてを用いた「特別研究プロジェクト」において、自身が所属する施設、あるいはプロジェクト研究の協力が得られる場を研究フィールドに、改革・変革プロジェクトの計画・実践・評価を行い、学術論文として博士論文を執筆する。この一連の過程を通して、博士の学位にふさわしい論理的かつ確かな改革・変革力を育てている¹⁾。

本学のDNPコースの開設は、2011年～2012年度将来構想委員会・大学院の在り方検討会に端を発する。この検討会において大学院の将来に向けた様々なビジョンが提案され、その一つとして研究者としての看護学博士（PhD）とは異なる、高度実践家としての看護学博士（DNP）のコース開設が提案された。その後大学の組織改編等を経て、2016年度にDNPコース設置に向けたDNPワーキンググループが立ち上がり、2017年の開設に至った。開設に至る経緯等の詳細については、先行論文に譲る²⁻⁹⁾。

開設から5年が経過した2022年、本DNPコースの現状を評価し改善につなげるため、DNPワーキンググループ内に評価班が組織された。評価班では、DNPコースのこれまでの実績と現状、更に将来の方向性について、学生、教員、環境・システムの観点から評価する方法について検討を重ねた。その結果、評価の柱立てとしてDonabedianの提唱する質評価の枠組み、ならびにアウトカムモデル¹⁰⁾の枠組みを採用し、structure/input（構造/事前準備）、process（過程、形成評価）、outcome（結果、成果）の要素を取り込んだ質問項目を学生対象、教員対象の設問に設定し、調査を行うこととした。

本稿では、本学DNPコースについて、修了生、在校生、教員と臨床教員（論文副査）を対象として2022年度から2023年度にかけて行った4つの調査結果を報告する。

II. 調査結果

1. 調査1：在校生、修了生を対象としたアンケート調査結果

調査対象はDNPコース修了生16名、在校生14名で、このうち修了者7名、在校生8名から回答を得た。調査時期は2023年3月、調査方法はGoogle Formsによる無記名アンケートの形で行った。アンケートの構造を表1に示す。

Structure評価として設定した質問に対し、以下の回答が得られた。入学前の準備に役立ったこととして、ホームページの内容や在校生・修了生の体験談、指導教員の話、オープンキャンパス、雑誌に掲載された本コースの紹介文献等が挙げられた。一方、ホームページから具体的学習内容に関する情報が得られないこと、仕事と学業の両立、英語の勉強、修了後のイメージが湧かないこと等を入学準備で困難だったこととして挙げていた。また受験生支援のためのアイデアとして、オンライン授業の充実、学費等に対する経済的支援、受験日程の増加、具体的なコース内容の紹介が示された。

Process評価については、週末に講義が集中している事やオンラインを活用したことなどからカリキュラムに対する満足度は総じて高く、8割が満足であると回答し、ディプロマ・ポリシー達成において十分な内容だと評価していた。DNPプロジェクトを遂行する上で良かったこととして、施設や教員の理解が得られたこと、施設内の医療者間の関係性が深まったこと、オンラインで指導が受けられたこと、DNPコース学生と修了生とのピアサポートがあったことなどが挙げられた。一方、プロジェクトを遂行する上での困難として、COVID-19感染症流行によりプロジェクトの実施が困難となったこと、施設の人事異動によるプロジェクトチームの再構築、所属施設での倫理審査に時間を要したこと、計画書・論文審査による指導内容等が挙げられた。学習環境について、よく利用したのは図書館とデータベースであり、これら学生の使用頻度の高いものについては満足度も高かった。DNPコースの学習に関わる良い点として、先輩とのつながり、指導教員の手厚い指導、同級生とのディスカッションがあったことが挙げられていた。一方、入学後早い段階で実装研究が理解（イメージ）できる機会があるとよい、との意見も示された。

Outcome評価では、5割以上の修了生がDNPコースでの学習が現在の仕事に役立っていると回答した。具体的には、プロジェクトの実施・評価を確実に行うことで看護ケアや業務を可視化し、チームに働きかけられたこ

表1 DNPコースカリキュラム調査の構造：在校生、修了生を対象とした調査

	測定内容と対象	質問項目
事前準備 Structure/	●調査内容 ・入学希望者のニーズ ・入学希望者のレディネス ●対象: 在校生、修了生	・進学にあたって支えになったこと、困難だったこと ・受験の際に役立った情報、必要だった情報 ・入学生を増やすアイデア、志願者・進学者支援のアイデア
Process/形成評価	●調査内容 ・在学中のニーズの充足 (カリキュラム、学習環境等に対する満足度) ●対象: 在校生、修了生	・カリキュラムに対する満足度 ・カリキュラム内容がディプロマ・ポリシー(DP)達成に十分か否か ・コースワークで良かったこと、困難だったこと (施設との調整、倫理審査、教員の指導、論文審査等の側面から) ・学習環境に対する利用度、満足度
Outcome/結果・成果	●調査内容 ・修了後に評価するニーズの充足状況 ・DNP 取得による自身、施設へのメリット、効果 ・今後の活動の展望 ・カリキュラムに対する評価 ・研究的側面の成果 ●対象: 修了生	・カリキュラムに対する満足度 ・DNP コース修了後の活動状況、現在の仕事において役に立っていること、プロジェクトの現在の状況 ・DNP 取得による職場へのメリット、自身へのメリット、DP の発揮状況 ・今後の活動の展望、期待すること ・このコースを他者に勧めたいと思うか ・修了後の論文化、公表状況

と、リーダーシップや人脈形成、交渉力などが現在の仕事に生かしていること、日ごとの実践活動を研究に生かしていることなどが挙げられた。DNPの学位取得について、自分自身のメリットとして自信をもって研究に関与できるようになった、エビデンスを用いた質改善活動を職場の仲間と実践する自信がついた、CNSの活動の視野が広がった等の回答が示された。また所属施設のメリットとして、プロジェクトの成果を通常ケアとして継続できており課題解決に貢献していること、博士の修了生が増えたことで病院の看護部の評価につながった等が挙げられた。回答者全員が、本DNPコースを他者に勧めたい、と回答した。

2. 調査2：DNPワーキンググループ（指導教員）を対象とした意見交換会（フォーカスグループインタビュー）の結果

指導教員を対象とした意見交換会（フォーカスグループインタビュー）は、2023年5月にDNPワーキンググループ（以下DNPWGとする）のメンバー13名が参加して行っ

た。また、インタビュー終了後、さらなる意見を収集するため2023年5月にGoogle Formsによる無記名アンケートを行い、DNPWGのメンバー8名から回答を得た。インタビューならびにアンケートの構造を、表2に示す。

Processの評価として、DNPの教育に関わって良かったこと、困難や課題に感じていること、今後の改善点・展望について尋ねた。DNPの教育に携わってよかったこととして、教員自身の学びになること、大学全体で取り組む良さがあること、実践との繋がり・貢献を実感できることが挙げられた。困難や課題に感じていることは、担当者の継続性と、教育人材の確保、教員の負担が大きいこと、海外講師の英語による講義をサポートすること（通訳等）の負担、学生に求める英語力・語学力を検討する必要があること、履修スケジュールが異なるPhDとDNP双方を指導すること、DNPの経済的評価、実装研究としてプロジェクトを行う難しさ、プロジェクト研究の範囲の整理が必要であることなどが挙げられた。また、今後の展望については、DNPの広報と普及、他大学との連携の可能性、教員の確保と育成、DNPコースの方

表2 DNPコースカリキュラム調査の構造：教員（学内教員、臨床教員）を対象とした調査

	測定内容と対象	質問項目
事前準備 Structure/	(事前準備状況、ニーズ等)	ー (今回は設定無)
Process/ 形成評価	●調査内容 ・講義、実習科目の教授法、カリキュラム全体の適切性 (カリキュラム評価、教員評価) ・プロジェクト実施環境の適切性 (システム、環境評価) ●対象: 学内教員、臨床教員	・指導上の良かった点・困難だった点 ・プロジェクト研究の主査・副査を担当して困難だった点 ・DNP コースのカリキュラム・内容の評価、改善点 ・施設でプロジェクトを実施する上で困難だった点
Outcome/ 結果 成果	●調査内容 ・修了生に対する評価(学生の変化、修了生に期待する役割等) ・プロジェクト研究の実施による施設、スタッフへの影響 ・DNP コースの教育を行う上での課題、必要なこと ●対象: 臨床教員、(一部学内教員)	・DNP 修了生について変化を感じた点 ・DNP 修了生に期待する役割 ・プロジェクトを実施したことによる施設全体、スタッフへの影響 ・DNP コースの教育を行う上で必要なこと、課題

向性と目的を明確に示していくこと、医療経済学や個別のプロジェクト指導などカリキュラム内容の検討に関すること等が挙げられた。

3. 調査3：研究科教員（調査2の対象以外）を対象としたアンケートの結果

DNPワーキンググループ以外の研究科教員を対象としたアンケートを2023年6月に実施し、4名の教員から回答を得た。いずれの質問も、processの評価として尋ねた。

本学にDNPコースが設置されたことで良かったと感じていることとして、実践力を臨床家の視点から学術的にとらえ、評価するルートができたこと、CNSなど臨床の現場で活躍している人たちが博士号を取得することで、現場の質向上、実践現場での変革をおこす人材の輩出につながることで、Implementation researchという研究手法が広まったこと、などの回答があった。DNPプロジェクト研究の主査・副査を担当した際の困難としては、現場の変化が速いこと、非常に複雑で個別的であり、現場をイメージできないとプロジェクトの理解が難しく時間がかかること、研究を行うための基本的知識が身に

ついていない学生が多いことなどが挙げられた。

今後DNPコースの教育にあたり、必要だと感じていることとして、医療・介護現場におけるマネジメントの理解、文献レビュー・記述研究・計画書の提出時期など学修進行に関する具体的な目安の提示、育成する学生像を見直し、本大学院のDNPの特色を出す必要があること等の意見があった。

その他、DNPコースに関する意見として、DNP修了者がいることで現場が素晴らしく変化することを表に出していくこと、ひとつの病院にひとりのDNP（を目指した）育成、DNP修了後の（学生の）変化・現場への影響を知りたい、研究の基礎が十分でない学生にとって、プロジェクト研究を実施し、博士論文を書くことはハードルが高すぎるのではないか、教育内容の見直しとともに、博士論文を課すこと自体を止めてもよいのではないか、等の意見があった。

4. 調査4：臨床指導教員/副査を対象としたインタビュー調査の結果

臨床指導教員/副査へのインタビューは、2023年7月と8月に1名ずつ計2名を対象に行った。process評価

として、指導上良かった点、困難だった点、特に施設でプロジェクトを実施する上での困難を尋ね、outcome評価としてプロジェクトを実施したことによる施設・スタッフへの影響、学生の変化と修了生に期待する役割を尋ねた。

DNPプロジェクトを指導して良かったこととして、自身の学びの機会となったこと、施設内に新たな支援体制ができたことなどが挙げられ、指導やプロジェクト実施において困難に感じたこととして、ルーチン業務に新たな仕組みを組み込むことへの困難や負担、実装チームと現場の調整が難しい時期もあったこと、立ち上げたプロジェクトを継続することの難しさ、副査としての役割の迷いがあったこと等が挙げられた。本カリキュラムへの評価と改善点として、専門資格を有する方々が、現場で活躍するための良いカリキュラムである、指導教員との連携も大切だと感じた、プロジェクトの継続という視点も大学で指導頂けると良いと思う、などの意見があった。

プロジェクトによる施設やスタッフへの影響としては、変革や取り組みに対する施設の可能性を感じられたこと、学ぶ姿勢を身近に感じ、個々のスタッフにも良い影響があったこと、支援に対するスタッフの意識が高まったとする一方で、現在は少しパワーダウンしているといった回答もあった。また、DNPコースの学修で感じた学生の変化としては、もともと熱心なスタッフであり、施設独自の支援方法を開発してもらえて良かった、プロジェクトの進捗によって、学修と臨床活動の調整に難しさを感じた時期もあったようだ、等の意見があった。DNP修了生に期待する役割として、実践の改善に貢献してくれること、施設内の多様なスタッフと共に取り組む姿勢、継続して施設が目指している支援システム作りへの協力などが挙げられた。

Ⅲ. 本調査を通して得られた本学DNPコースの評価と今後の課題

4つの調査の結果から、本DNPコースについて、多くの肯定的な評価と様々な課題が明らかとなった。

肯定的な評価として、学生からは受講しやすい開講形態で、教員の指導体制や修了生からのサポート、施設設備等の学習環境も充実しており、自身の実践ならびにディプロマ・ポリシー達成につながる内容を学習できるコースであること、そしてその結果、修了後に自信を持って研究や質改善活動ができるようになったことが示されていた。また、教員は、本コースの教育に携わることで自身の勉強になり、さらに看護実践への貢献を実感できる、といった自身の利点と、臨床現場の変革を起こす人材を育成できるコースであるとの認識を示した。臨床指導教員からは施設として、新たな実践の導入や変革の可能性を感じる機会となったとの評価が示された。これら

のことから、開設後5年と未だわが国のDNPコースとしても黎明期にある中で、本学のDNPコースは高度実践看護師の博士課程としてディプロマ・ポリシー（DP）に照らして一定の水準に達していると評価できるであろう。

一方、学生支援、教員の指導体制、DNPコースカリキュラムの観点から、今後の更なる発展に向けて、いくつかの検討・改善課題が明らかとなった。

1. 学生支援に関する課題

本DNPコースには、開設当初より全国各地から学生が入学している。そのため、遠方の学生は講義のための通学が時に困難であったり、変化の激しい臨床現場での勤務であるが故に仕事と学業の両立が難しい例も散見された。COVID-19感染症の拡大により、対面講義からオンライン講義へと全学的にシフトしたことも相まって、オンライン学習の利点が評価された一方で、対面講義を希望する学生、教員の意向も強く、双方のバランスをいかに保つかが今後の課題である。

また、実装研究を主とした研究デザインについて、所属施設内の倫理審査での承認に時間を要する例も多く見られた。そのため、本学の研究倫理審査委員会に一括申請を行い、その承認を持って所属施設の迅速審査で承認を得るなど、大学と研究対象施設との間の調整を図ることも今後一層求められる。

さらに、プロジェクト研究の途中で、施設の組織変更や学生はじめコアメンバーの異動などにより、計画の再構築を迫られる例もみられた。これについては、万一主メンバーがプロジェクト途中で異動しても、即時対応できるような組織構成とすること、情報共有を十二分に行うよう学生に指導すること、また新たなメンバーを随時取り込める柔軟なプロジェクトチームとなるよう指導することも求められる。更に、博士課程修了後も、組織がプロジェクトを継続していけるよう、継続的な研究支援体制を持つことも大学・施設間の課題である。

プロジェクト研究の実施には、学費のほか研究費も必要となる。様々な奨学金や研究費を獲得できるよう、教務・学生課事務部門と学生、教員間で情報共有し、申請への支援を行うことが望まれる。

2. 教員の指導体制に関する課題

DNPコースを担当する指導教員は、大学院教育において博士前期課程（修士課程）の他、博士後期課程としてPhDコースと本DNPコースを担当している。調査結果にも示された通り、コースワークの異なる2つの博士後期課程（PhDとDNP）の学生を同時に指導することは、教員にかなりの負担となっている。この中で、計画書審査の時期、方法などが全く異なることについては、学生・教員双方の利点を考慮し、2023年度より計画書審

査の時期と方法を、DNPコースもPhDコースと同様に
 するとした改善を図った。計画書の提出時期の指定が撤
 廃され、審査時間が長くなったことで、個々のペースで
 計画書を作成すること、また審査に十分な時間をかける
 ことが可能となった。このように、可能なところから解
 決を図ってはいるが、特論講義担当者の負担の軽減とカ
 リキュラムの継続性の保持、新たな教育人材の確保等は、
 今後の継続課題である。

3. DNPコースカリキュラムについての課題

指導、審査を担当する教員からは、プロジェクト研究の
 範囲の明確化に対する意見も寄せられた。どのレベルのエ
 ビデンスを有する介入を実装研究として行うか、またそれ
 をどの程度の精度で行うことを本課程が求めるかについて
 は、教員により意見の分かれるところである。学生の所属
 施設の事業体種別や規模、臨床課題の種類と介入プログ
 ラムによる影響の度合い、さらに学生の職位により、可能
 なプロジェクトの規模や精度が異なるのが現状である。科
 学性を担保しつつ、実現可能性のある研究の範囲をどの
 ように決定するか、研究科としての方針を定めた上で、教
 員・学生間で認識を確認することが肝要である。

また、新たな研究の方法論や医療システムの変化に対
 応できるよう、カリキュラムの継続的な改善も求められ
 る。そのための組織体として、本コースが教育課程とし
 て成熟するまでの間、研究科内で継続的に本コースの評
 価、改善を検討する委員会等を常設していることも必要
 であろう。

本学のDNPコース開設に続き、近年他大学において
 も、DNPコース設置の動きが始まっている。このよう
 な変化を追い風に、DNPの役割と意義を世に示してい
 けるよう、DNPの存在の社会的認知を高めるような働
 きかけを他校と協働して考えていくことが重要である。

4. 今後に向けて

本邦のDNP教育は、未だ緒についたところである。
 実際米国における看護の大学院博士課程においては、
 2010年以降DNPコースの数が増加し、2021年現在PhD
 コースが149課程であるのに対し、DNPコースが426課
 程（2022年）と、DNPコースがPhDコースを完全に上
 回っている^{11,12)}。DNPの社会的認知を高めるとともに、
 修了後の組織におけるポジションの確保のためにも、診
 療報酬上の評価に繋げることで、またDNPが組織に存在
 することによる質向上の具体的指標を示すなど、今後す
 べきことはいくつもある。これらは本学が単独で行うの
 ではなく、医療機関を取り込んだ、DNP教育課程コン
 ソシアムのような複数大学による協働組織としてカリ
 キュラムや科目を共有するなど、協働していくことも視
 野に入れる必要があるだろう。

今回の調査結果は、回答に協力が得られた一部の学生、
 教員の意見に基づくものであり、その点は本調査の限界
 である。本結果を元に次なる改善策を構築し、実施、評
 価へと繋げていくことは、わが国におけるDNP教育課
 程のパイオニアとしての本学の責務と考える。

なお、ここで示した調査結果の詳細は、本学HPで公開
 している。併せて参照されたい。

引用文献

- 1) 聖路加国際大学. 聖路加のカリキュラム（博士課程）
 [Internet]. https://university.luke.ac.jp/admission/grad_features/doctor_curriculum.html [参照2023-10-17].
- 2) 萱間真美. 聖路加国際大学大学院のDNP（Doctor of Nursing Practice）コース立ち上げの経緯と展望. 聖路加看護学会誌. 2020;23(2):45-47.
- 3) 新福洋子, 大橋明子, 奥裕美ほか. 米国におけるDNP新養成の概要 米国の白書などからみえること. 看護研究. 2017;50(1):39-45.
- 4) 吉田千文, 亀井智子, 片岡弥恵子ほか. 日本におけるDNP養成に向けて 教育方法とカリキュラム開発. 看護研究. 2017;50(1):46-53.
- 5) 萱間真美. わが国におけるDNP教育に求められるもの. 看護研究. 2017;50(1):59-64.
- 6) 余善愛. 米国におけるDNPの現状と展望. 看護研究. 2017;50(1):12-17.
- 7) 麻原きよみ, 石田佳奈子, 井出由美ほか. DNPで実践と研究に橋梁を架ける. 医学界新聞. 2022.12.12 (3497号).
- 8) 林直子. Implementation Research ことはじめ. 聖路加看護学会誌. 2020;23(2):37-40.
- 9) Yeo S, Kayama M, Toles M, et al. St.Luke's International University and University of North Carolina at Chapel Hill collaboration project to develop the first DNP program in Japan. J Professional Nursing. 2021;37:771-776. <https://doi.org/10.1016/j.profnurs.2021.04.007>
- 10) Holzemer WL. (岸本好美ほか訳). ヘルスケアリサーチのためのサブストラクションとアウトカムモデル. 看護研究. 2000; 33(5):355-359.
- 11) American Association of Colleges of Nursing-AACN Fact Sheet [Internet]. <https://www.aacnnursing.org/news-data/fact-sheets/dnp-fact-sheet> [cited 2023-10-20].
- 12) American Association of Colleges of Nursing-AACN Data Spotlight: Trends in Nursing PhD Programs [Internet]. <https://www.aacnnursing.org/news-data/all-news/article/data-spotlight-trends-in-nursing-phd-programs> [cited 2023-10-20].